

VLBI 科学諮問委員会 第 14 回 議事要旨

日時 2025 年 6 月 30 日（月）15:00—16:50

出席者（敬称略）今井、高橋、西村、秦、藤澤、町田、三澤

廣田、本間（オブザーバー）

欠席者（敬称略）小山

開催方法 Zoom

議事

（１）JCMT 支援に関して

水沢 VLBI 観測所（以下、観測所）本間所長より、JCMT に対する予算措置に関する経緯及び支援に対する答申素案が提示された。（資料 4_所長報告他_250411.pdf）。種々の情報確認・意見交換の結果、本委員会として答申案（VLBI 観測分のみ）を今井委員長・本間所長にてまとめ、8 月までを目処にメール会議にて答申案を審議することが了承された。

なお、9 月（East Asian ALMA Workshop 直後辺り）に予定されている ALMA 科学諮問委員会との合同会合（今井・秦・小山又は藤澤の各委員

が参加することを承認)を経て、天文台執行部への最終答申案をまとめる予定であることも確認された。

(2) EAVN共同利用観測のあり方について

前回委員会で廣田オブザーバーから報告があった近年のEAVN観測提案書の統計情報(資料4_EAVNsummary250403.pdf)に基づき、EAVNの運用にあたり今後注視・注力すべき項目について、意見交換を行なった。提案書代表者が所属する国の数が微増し、国際的認知度も上がってきているものの、提案されている分野がAGNに偏っている点などが指摘された。その是正にも関連して、電波干渉計サマースクールの重要性についての指摘もあったが、具体的にどのように実施していくべきかについては継続審議となった。さらに、資料上では現れていない根深い背景について、廣田オブザーバーから後日解説できるという発言があり、委員会として議案として提示する際に改めて発言を要望することとした。

ただし、直近でコミュニティと共に検討しアクションに移す必要がある事項として、VERAのK/Qバンド同時受信用準光学系の常時運用化に向けた取り組みが挙げられた。そこで、ユーザーも貢献が求められ取り

組まなければいけない項目(感度やアストロメトリに与える影響の評価、等)について整理することを優先することとし、廣田オブザーバーに取りまとめを依頼した。

(3) 国際協力案件への対応について

本間観測所長、今井委員長、秦・町田各委員から、国内外から要望のある VERA 機能改善に寄与する可能性のある大型競争的資金の応募状況について情報提供があった。それらを受けて、実際にこれらのどれかが採択された際に観測所側で受け入れる条件について議論を行なった。受け入れる条件については VERA Users Meeting を通して毎年周知しているが、実際に装置の設置・入れ替えを行う作業を行う上で、ハード面や作業期間などで様々な制約があるので、天文台本部による事前ヒアリングの有無に関係なくかなり前から観測所へ個別に相談が必要であることが確認された。海外からの共同開発の話が出てきた際にも、同様な手続きが必要であることも確認された。さらに、VERA 以外の VLBI ネットワークとの連携に必要な財源の確保については、別途検討を続けることとした。

報告

(1) 観測所の近況について

本間所長より、人事異動(着任予定)及び公募(審査中)・今年度予算・VERA保守関係について報告があった(資料3_所長報告+JCMT_250630.pdf)。

(2) ミリ波VLBI関連： BHEX WG申請状況

本間所長より、先日JAXAへ申請していた Black Hole Explore (BHEX) Working Groupの設立が承認されたという報告があった(資料3_所長報告+JCMT_250630.pdf)。

(3) EAVN TAC (2024B, 2025A期)報告

EAVN TACの廣田氏より、EAVN共同利用観測(2025B期)における提案書受付状況について報告された(資料表示のみ、EAVN Regular Meeting 提出資料)。2024年度(2024B, 2025A)に匹敵する程の提案件数

があった。